

梅雨に備え防災訓練 熊本市など県内15市町村

梅雨の大雨による土砂災害などに備えた情報伝達、避難訓練が一日、県内十五市町村であった。二〇〇六年から国などが実施している全国統一防災訓練の一環。

下益城郡美里町の訓練は、昨年七月の豪雨で家屋流失などの被害に遭った柏川地区が局地的な大雨に見舞われ、土石流の恐れがあるとの想定。



担架で運び込まれた女性の手当てに当たる消防署員ら＝美里町

町や消防、警察、住民など約二百人が参加。町は、防災行政無線で町全域に自主避難を呼び掛け、役場祇用庁舎に災害対策本部を設置した。

柏川地区には避難を勧告。四キロほど離れた体育館に、住民六十五人が車で次々と避難し健康チェックを受けた。担架で病人を避難させる訓練もあった。消防署員による応急手当講習などもあり、住民たちは真剣な表情で耳を傾けていた。

熊本市では、昨年七月に避難勧告が出されるなど土砂災害の危険性が高い河内町葛山地区を対象にあり、住民や消防団など約二百人が参加した。

地区から約一・五キロの河内中に避難所を開設。体が不自由な高齢者など要援護者十八人を、住民が車で避難所まで搬送した。ほかの住民らもバトカーなどの先導で歩いて避難。熊本大防災ボランティアも誘導などを手伝った。(藤本英行、藤山裕作)